

藤が丘駅前地区における景観形成について

(昭和大学藤が丘病院)

横浜市都市美対策審議会 景観審査部会 審議資料
2020年 12月

横浜市都市美対策審議会 景観審査部会の審議について

I.都市計画段階

II.設計段階

【目的】
再整備基本計画(素案)に関する内容の共有
地区計画に定める形態意匠制限に関する内容の審議

【審議の内容】
・景観形成の方針

・形態意匠の制限

都市計画段階①-1(前回)

都市計画段階①-2(本日)

- 開発全体の整備方針(ネットワーク、広場等の配置等)
- 計画概要、再整備のイメージ
- 景観形成の方針

都市計画段階②

- 形態意匠の制限案

【目的】
病院設計における地区計画の形態意匠制限の認定に関する審議

【審議の内容】
・病院の設計段階における計画
(ファサードデザイン、ランドスケープ、色彩・素材、照明・サイン等)

■ 病院のファサードデザインの計画

- ・高層部
- ・低層部

■ 病院のランドスケープの計画

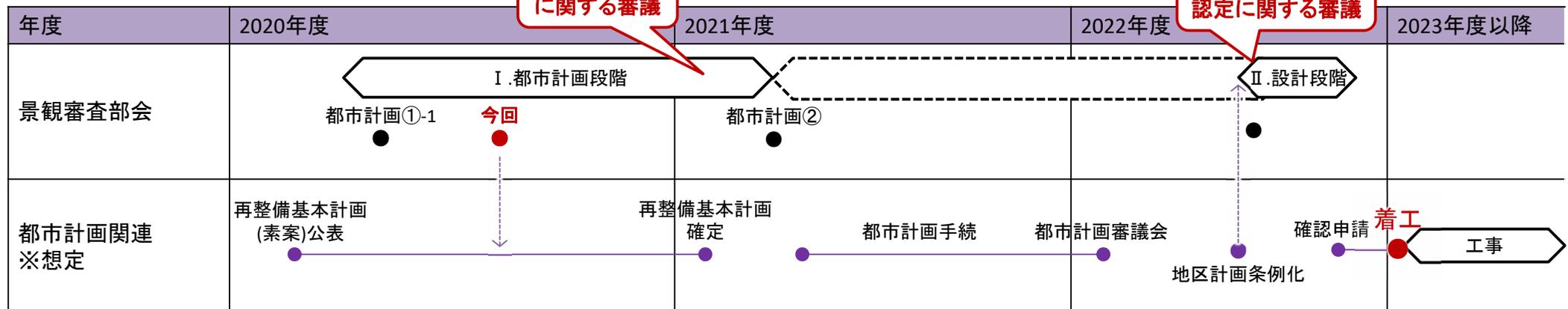
- ・北側広場(にぎわい軸の形成)
- ・西側広場(駅前方面)
- ・南側広場
- ・東側(公園等に向けた表情)

■ 病院の色彩・素材の計画

■ 病院の照明・サインの計画

形態意匠制限に関する審議

病院設計における認定に関する審議



① まちの一体性

- ・まち全体の計画でどういった統一性を持たせるか
- ・病院計画ありきで周辺に緑を配置した印象

② 主動線の整理

- ・駅から病院や公園に行く主動線はどこかそのレベルは一階なのか上空なのか、メインレベルの設定が重要
- ・駅側から病院南側への入口はないのか

③ 駅前空間のデザイン

- ・病院の西側が裏の印象、駅前病院の立地を活かして面白い提案をして欲しい
- ・交通広場は緑地の整備などを考えて欲しい
- ・ランドスケープも駆使して柔らかな感じを出せるか



④ 駅前の回遊性

- ・駅と接続しないデッキの位置づけがわからない
- ・民間が資産を持ち維持管理をしていくのは負担では
- ・病院と商業・住宅棟を繋げなくても良いのでは

⑤ 病院南側のデザイン

- ・駅からの導入部分のデザインと南側が顔となるようなデザインが重要

⑥ 公園と施設の一体的な計画

- ・全体の敷地をどういふふうに取り扱うか
- ・公園と施設の関係性をうまく解いて欲しい
- ・南側から緑地を通して公園に行くアクセスが重要

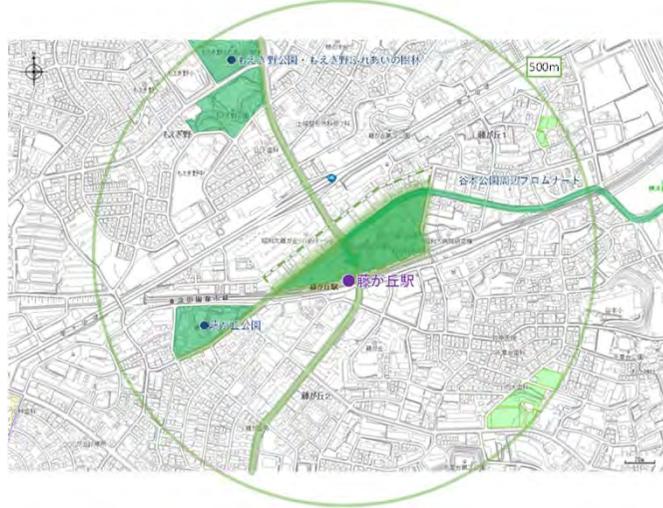
【凡例】

- : 歩行者動線 (地上レベル)
- : 歩行者動線 (デッキレベル)
- : 縦動線 (検討)
- ▲ : 建物出入口
- : にぎわい・交流施設等

藤が丘らしさ その1

—広域みどりのネットワークが交差するまとまった緑豊かな空間—

藤が丘駅を中心に藤が丘公園、もえぎ野公園・もえぎ野ふれあいの樹林といった緑豊かな公園や谷本公園周辺プロムナード等により、広域的な緑のネットワークの交点に本地区は位置しています。



藤が丘らしさ その2

—駅前に病院や公園が立地する健やかで落ち着いた「ホッとする」まち—

駅前に病院や公園といった人々の生活・健康に関連した施設が立地しています。それらの再整備をきっかけに、地域住民の方々の藤が丘らしいまちづくり・ライフスタイルとして、「健康」をより多角的に捉え、「ウェルネス」なまちづくりを推進していきます。

藤が丘らしい「ホッとする」環境づくりを実現する「ウェルネス」の7つの指標

身体のWellness

健康維持・
病気の治療・予防

感情のWellness

自分自身の気持ちや
ストレスのコントロール

社会的なWellness

良好な人間関係を
築く

環境のWellness

自分の生活環境
・自然環境を保全

精神のWellness

人間として生きる
意味・目的の追求

職業のWellness

仕事を通じた
自己実現・QOL向上

知性のWellness

知的探求心の育成

藤ヶ丘らしさを表すまちづくりのコンセプト

“ GREEN  WELLNESS ”

豊かな緑に囲まれた+病院が見守る
「ほっとする」安心・安全、健康な街

豊かな緑がつなぐ、「ウェルネス」のシーケンス
まちのみどりが「見える」、まちのひとが「見える」



街区を超えて機能をつなぐ「にぎわい軸」と「回遊軸」



■ にぎわい軸

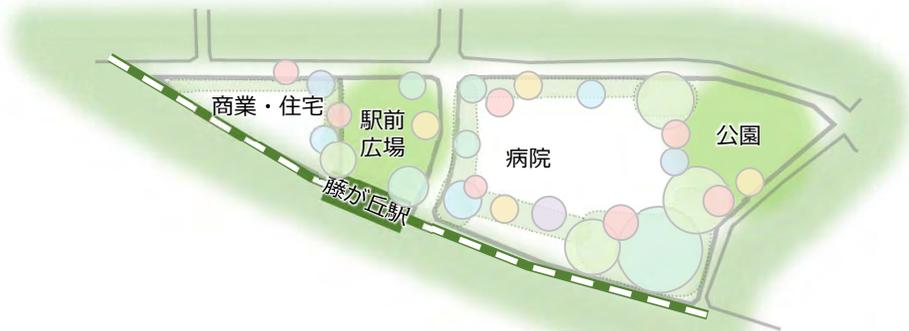
通りの両側でにぎわい・交流施設等を誘導し、地区一体でにぎわいの顔づくりを行う動線。周辺市街地に波及するにぎわいを創出します。

■ 回遊軸

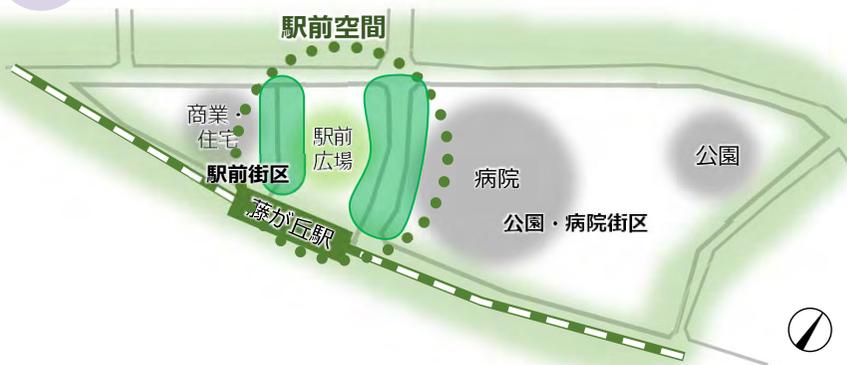
駅前広場、公園、病院、商業・住宅といった様々な機能を回遊軸で結び、公園のように自由に巡る歩行者ネットワークを形成します。

まち全体で健やかな屋外生活を実現する「居場所」

- 主要な歩行者の動線となるにぎわい軸・回遊軸には、隣接機能や空間のスケールごとに、まち全体で健やかな屋外生活を実現する多様な「居場所」を配置します。
- 豊かな緑が歩行者空間や広場によって視覚的に繋がりながら、7つのウェルネス「身体・感情・社会的・精神・知性・職業・環境」を実現するアクティビティが複合的に展開されます。
- 多様なアクティビティが散りばめられることで、各々が居場所を選びながら地区を巡るように回遊性が創出され、街区の一体性が生まれます。



駅前広場機能の拡張により生まれる一体的な駅前空間



駅前の環境空間を隣接地との一体整備によりグレードアップ

- 駅前広場としての滞留・交流機能の強化
- 周辺地域に繋がる快適な動線機能の強化
- 公園のような豊かな緑化機能の強化

健やかなライフスタイルを実現する広場にぎわい・交流施設でのアクティビティのイメージ



※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

今回の提案(前回指摘への対応)

デザインコンセプト

- ・ 駅前地区全体に緑と一体となった多様な居場所が散りばめられた、**公園のような駅前**を目指します。
- ・ 地形の高低差を活かした**緑のネットワークの形成、駅前広場と病院低層部を一体的にデザイン**します。
- ・ 多様な居場所を繋ぎながら、各施設のまちに開かれた機能をネットワークさせることで、**いきいきとしたシーンをつなぐ 歩きたくなる回遊動線**を創ります。
- ・ 病院は、**駅前広場のデザインに呼应した柔らかな表情**をつくり、建物の圧迫感を抑えるファサードのデザインとします。

① まちの一体性

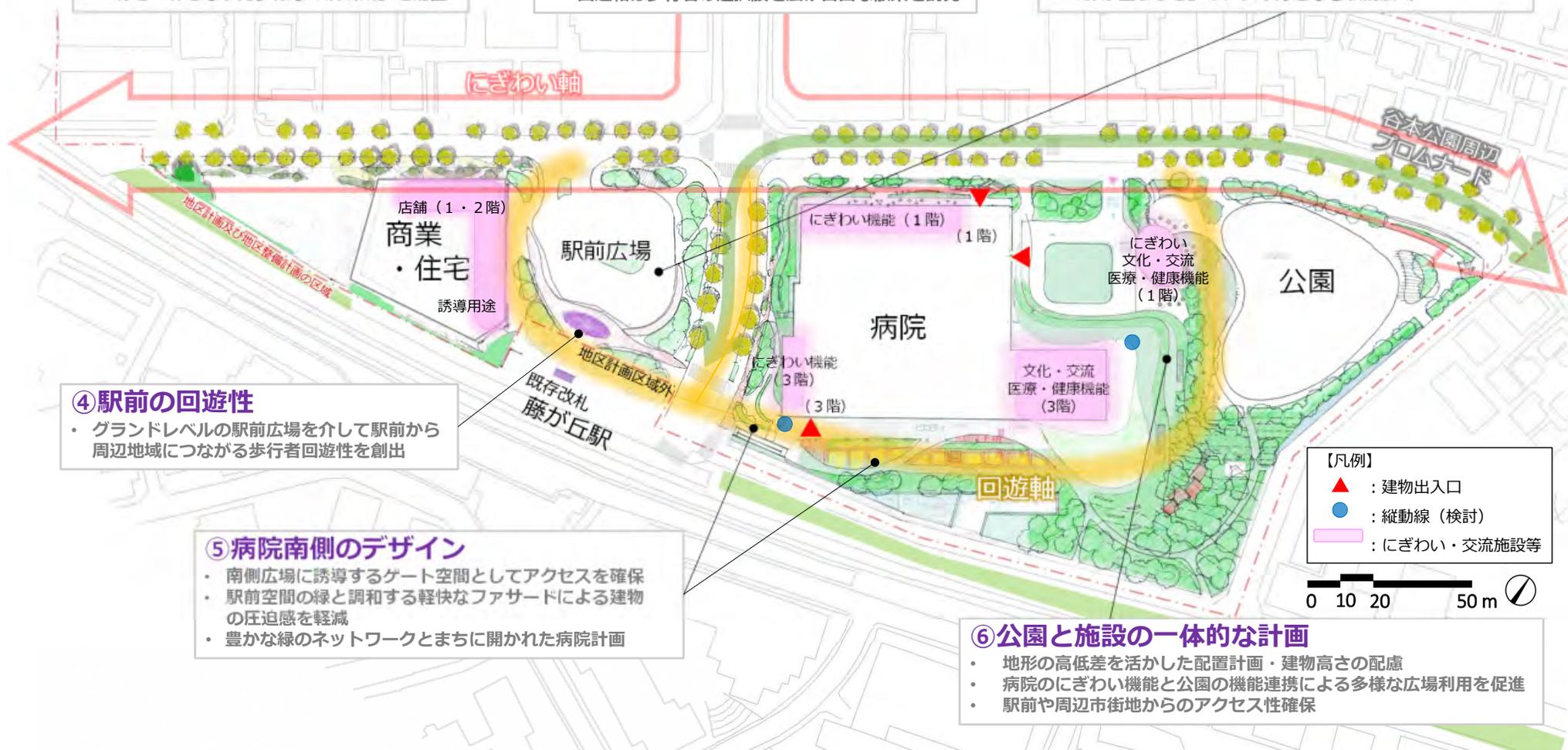
- ・ 駅前地区全体として公園のような駅前空間を形成
- ・ 緑と一体となった多様な「居場所」を配置

② 主動線の整理

- ・ まちの主動線をグランドレベルとし、駅前広場の改良やにぎわい軸とも連携
- ・ 回遊軸は歩行者の選択肢を広げ自由な散策を誘発

③ 駅前空間のデザイン

- ・ 街区をつなぎ、一体性の核となるような駅前広場として、地域に親しまれる、公園のような駅前広場を形成
- ・ 「藤が丘らしさ」のシンボルとなる駅前広場



※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

①にぎわい軸と回遊軸からなる駅前を起点とした街区間の回遊性

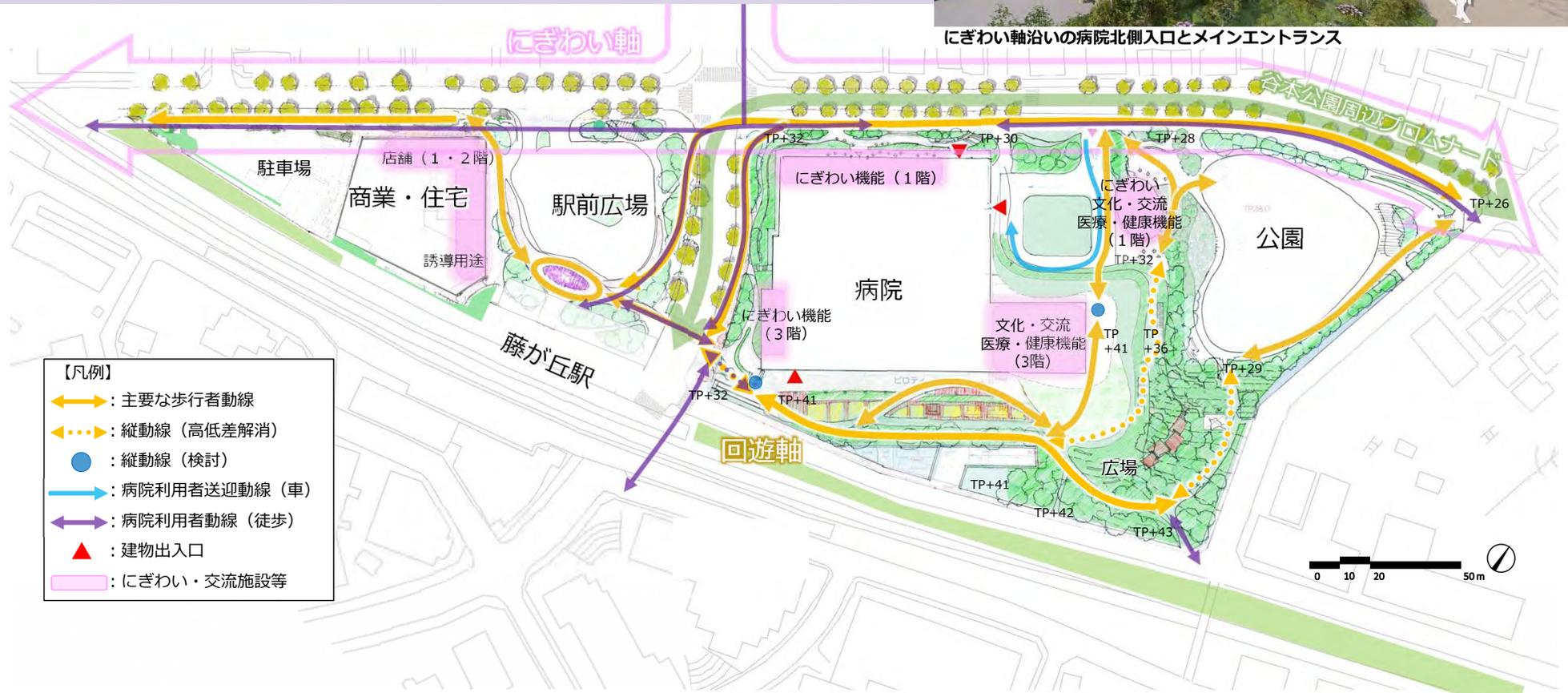
- にぎわい軸(グランドレベル):通りの両側でにぎわい等の機能誘導を図るまちのメイン動線、病院北側の道路は歩道を拡幅し、駅前広場と公園を結び、病院アクセスのメインルート
- 回遊軸:駅前広場を起点として、歩行者の選択肢を増やす街区全体の回遊動線。広場等の憩いの場をつなぎ、市民や病院利用者も滞在し、交流や健康をはぐくむ動線

②主動線と地形の変化に対応した病院街区の動線計画

- ・病院利用者の送迎動線は、北側からのロータリーをメインとし、1階レベルにメインエントランスを配置します。
- ・周辺地域からの歩行者動線は、にぎわい軸沿いの病院北側をメインとします。
- ・駅方面からのアクセスとして、病院南側にサブエントランスを設置します。駅からの高低差を解消するバリアフリー動線として、エレベーターを設置し、病院前の広場を中心とした誰もが利用できる憩いの空間として、滞在・交流・健康を促進する動線とします。



にぎわい軸沿いの病院北側入口とメインエントランス



駅前空間のデザイン(イメージ)

街区を繋ぎ一体性の核となる公園のような駅前広場

①地域に親しまれる、公園のような駅前広場

- ・病院敷地と商業・住宅側敷地を含め、広場全体を豊かな緑で彩ります。また、既存の広場内の藤棚を継承します。
- ・バス上家・建物庇の軒下空間に沿って緑豊かな空間を行き交う、快適な歩行空間を創出します。

②街区間を繋ぐ一体的なつくりこみ

- ・バス停の上家や建物低層部に柔らかな印象の庇を設けることで、駅前広場と病院、商業・住宅が一体的に見える低層部のつくりこみとします。
- ・病院西側の広場と駅前広場東側で一体的な待合・交流空間をつくります。
- ・商業・住宅側は、1, 2階の重層的な駅前のにぎわいが見える立体的な広場空間をつくります。

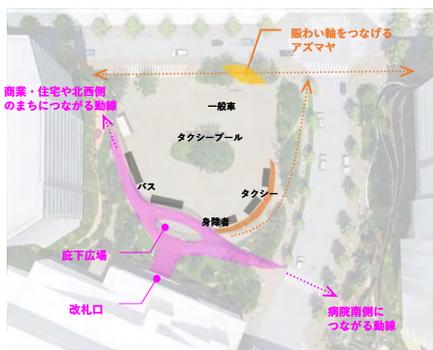
③庇による低層部の水平方向を強調するデザイン

- ・駅前の庇は水平方向の視線や動線の繋がりを感じさせ、建物の圧迫感を軽減します。
- ・足元の緑と相まって、周辺市街地へ緩やかに繋がる空間として機能します。



※パースは現時点のイメージです

動線や居場所をつなぐ柔らかな曲線によって形成される駅前広場

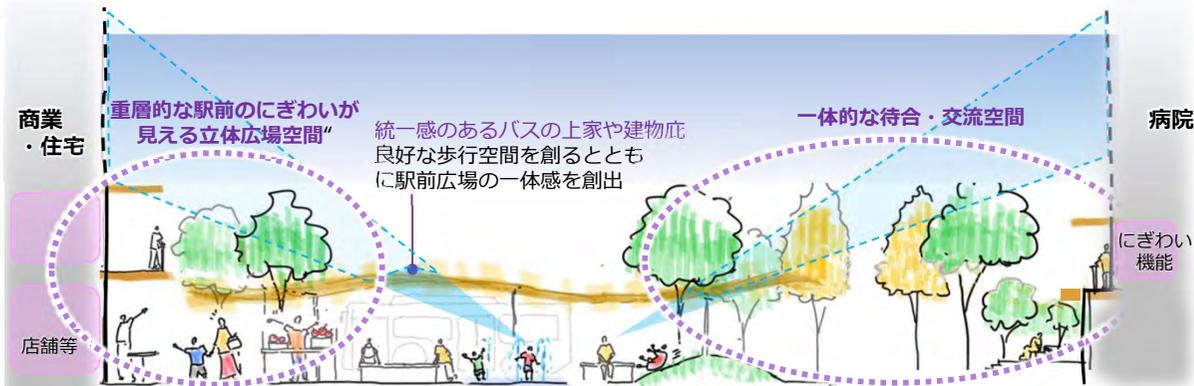


回遊性とアクティビティを生み出す広場の庇



曲線の呼応による景観の調和

みどりとひとを「あつめる」駅前空間のランドスケープデザインの概念イメージ



庇によりグランドレベルの水平方向の視線や動線の繋がりを生み出し、
圧迫感を軽減し、ヒューマンスケールな空間を創出

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部会より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

駅前空間のデザイン(イメージ)



街との接点となる“あずまや”

駅前広場とにぎわい軸の結節点に、人々が集う“あずまや”を整備します



駅前と病院の一体的な待合・交流空間

街区間で一体的に、待合や交流、休憩、滞留等を促す空間を整備します



病院南側広場につながる緑のポケットパーク

病院西面を駅前空間の一角と位置づけ楽しさと偶発的に出会う仕掛けを設えます



緑とオープンスペースによる多様な「居場所」の創出

駅前広場に設ける滞留スペースや、商業・住宅低層部の立体的な広場空間は、人々の交流や一人の時間を楽しめるような、気軽な寄り道の場所となります



藤棚の継承と地域に親しまれる駅前広場

駅の改札を抜けると、藤が丘を象徴する藤棚（既存広場内の藤棚を継承）と連続する庇の光景が広がり、藤が丘らしい駅前空間を印象付けます



緑のネットワークの起点

駅前広場に豊かな緑に囲まれたポケットパークのような空間を散りばめ、公園や病院南側広場へ至る緑のネットワークの起点とします

※パースは現時点のイメージです

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

病院北側のデザイン(イメージ)

① 駅前広場から繋がるみどり

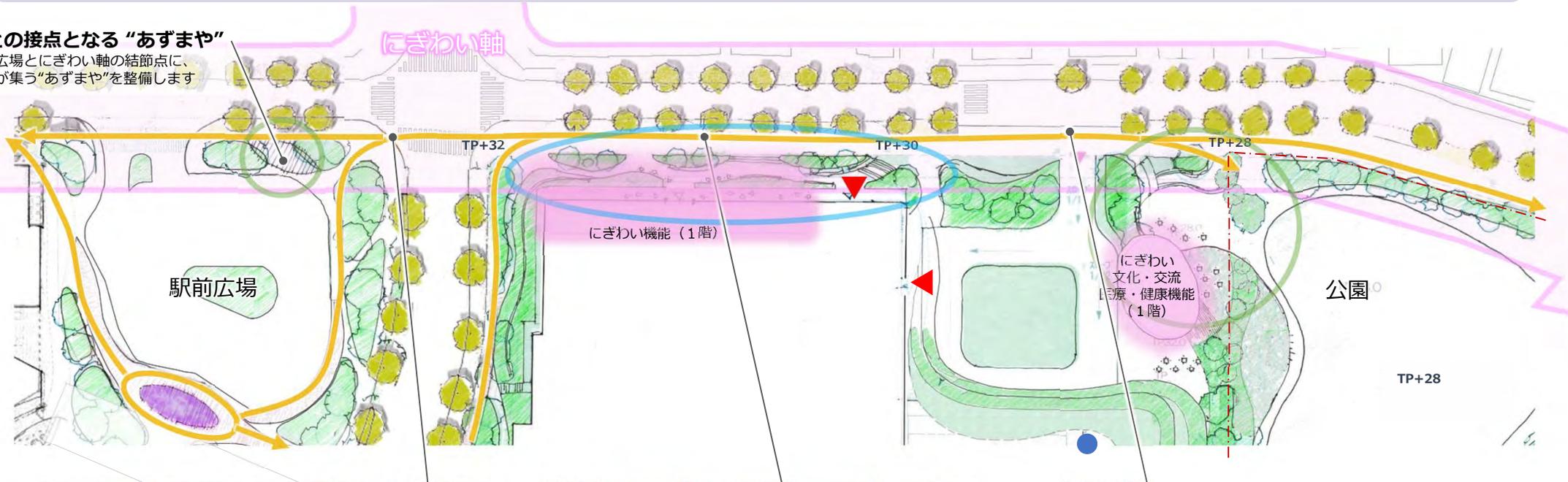
- 駅前広場から連続的に、既存の銀杏並木を生かした緑を配置し、シンボルとなる街路景観を形成します。
- 歩道空間と一体的に民地内に緑地や広場を設けることで、緑の豊かさを感じられる快適な歩行空間を創出します。

② 利便施設と合わせた広場の配置によるにぎわい形成

- にぎわい軸沿いに広場やにぎわい・交流施設等を配置し、通りににぎわいが表出する景観とします。
- 駅前広場の東屋や、にぎわい軸沿いの歩道と一体的な広場など、歩行者がにぎわいのある空間を楽しみながら憩い、安らげるような空間形成を図ります。

街との接点となる“あずまや”

駅前広場とにぎわい軸の結節点に、人々が集う“あずまや”を整備します



駅前広場から連続するみどりと庇の空間

駅前から公園へと人の流れを自然に促す低層部の設えとします



にぎわいが表出する広場空間

ベンチやテラスなどによりにぎわいの創出を誘発します



公園へにぎわいを繋ぎ、地域の活動を受け止める広場

活動・交流・休憩のための多目的な広場を公園に面して設け、コミュニティを育む空間機能を高めます

※パースは現時点のイメージです

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部会より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

公園と施設の一体的な計画(イメージ)

①地形の高低差を活かした配置計画と立体的な緑の設え

- ・建物上に立体的にビューテラスを配置し、公園との見る・見られるの関係づくりにより安全性を向上させます。
- ・段々状のビューテラスの緑化により、公園と連続した緑のネットワークを創出します。

②公園と広場のつながりを感じるつくりこみ

- ・市民緑地認定制度※1を活用した、病院のオープンスペースと公園の一体感のある緑のボリュームを確保するとともに、両者の同時活用による地域イベントの開催も可能となります。
- ・病院敷地と公園を歩行者ネットワークでつなぎ、回遊動線を創出します。

公園と病院のオープンスペースの一体的な景観形成と市民緑地認定制度活用※1による価値向上

近年、オープンスペースの重要性が非常に高まっている中で、公園の再整備と隣接するオープンスペースとの一体的景観形成及び市民緑地認定制度の活用により、公園単体の機能に留まらない多様なアクティビティと人々の交流を促し、相互の価値向上を図り、人と人を結びつけるコミュニティの拠点としての公園のポテンシャルを一層引き出します。

①-1 公園に隣接したオープンスペースの配置による緑のネットワークと景観形成

①-2 沿道のにぎわい形成と公園に向けた顔づくりに資するにぎわい・交流施設の配置

②市民緑地認定制度を活用し、良質な緑のオープンスペースと地域住民の利用を促進

- ・北側：にぎわい交流施設に面して多様な活用ができる広場的空間
- ・南側：地形の高低差を活用した斜面林、身近な自然と触れ合う空間【イメージ】



北側の広場のにぎわい形成

南側の緑豊かな斜面林

一体整備・市民緑地制度の活用による相乗効果

- 空間的な効果：空間の開放性・景観としての緑量の増加
 - ・市民が活用できるオープンスペースの質・量ともに向上
 - ・公園とオープンスペースの回遊性を確保、公園へのアクセス性の向上
 - ・にぎわい・交流施設から公園への見通し確保による視界の広がり
- アクティビティの効果：多世代にとっての多様な利用機会の創出
 - ・公園利用目的だけでなく、多世代の多目的な利用の促進
 - ・市民緑地を活用したイベントの開催
 - ・子どもから大人まで幅広い世代に向けたアメニティ性の向上



※1：市民緑地認定制度：民有地を地域住民の利用に供する緑地として設置・管理する者が、設置管理計画を作成し、市区町村長の認定を受けて、一定期間当該緑地を設置・管理・活用する制度。

地形の高低差を活かした病院利用者も活用できる底のある静的な空間

公園側の眺望を活かしたビューテラス

※パースは現時点のイメージです

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

①南側広場に誘導するゲート空間

- ・大庇で駅前に向けたゲート性を演出します。
- ・昇降施設を駅前から視認性の高い場所に設けます。
- ・高低差を活かしたステップ広場を設けることで、南側広場まで、憩いの空間を連続させます。

②駅前を眺めるテラス空間

- ・大庇の下に人々の憩うテラス空間を配置することで、高低差を活かした、駅前への視点場をつくります。
- ・駅前のみどりが感じられる滞留空間とします。
- ・適度な密度で居心地の良い屋外生活空間とします。

③駅前空間と調和する低層部のファサード

- ・駅前に面する低層部は、緑・空を映し出す素材を中心に、開放感のあるファサードデザインとします。
- ・駅前の緑との調和や舗装の協調等、駅前空間として統一感のあるファサードデザインとします。



※パースは現時点のイメージです

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部会より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

病院南側のデザイン ～7つのWellnessを高める 健康増進の丘～

豊かな緑とまちに開く病院計画で‘いきいき’としたシーンをつなぐ 歩きたくなる回遊動線を創ります



健康増進に寄与する散策路
起伏を利用し健康増進+子供の遊び場となる散策路を整備します



身近に自然に触れリフレッシュできる斜面林
緑豊かな斜面林の散策路とし、身近な自然に触れて自然との調和を感じられる計画とします



“まちのテラス”として駅前広場機能の拡張・強化に寄与するにぎわい機能等を配置します

駅前広場から病院南側広場をつなぐ緑のポケットパーク

駅前広場から南側広場へ至るゲートエスカレーター・エレベーターにより高低差を解消しつつ、緑豊かな南側広場への導入部分として緑が垣間見えるアイストップとなる空間とします

病院ピロティに面したヒーリングガーデン

- 美しい花々や香りのする草花などを楽しみながら散策できるヒーリングガーデンとします
- ピロティ下/外来ロビーに病院利用者・地域住民が気軽に緑を楽しむラウンジスペースを設けた憩いのスペースとします



開放的なロビー空間と情報発信の場

- ピロティに面して開放的な外来ロビーを計画し、病院利用者の憩いの場とします
- QOLギャラリー（健康増進等の情報発信）を企画展示するなどの利用も可能です



地域に開かれた機能と広場の一体的な利用

- 文化・交流、医療・健康機能と一体的に利用できる開放的な空間とします



※パースは現時点のイメージです

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部会より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定してまいります。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。

豊かな緑と街に開く病院建物のデザイン

- 立体的な緑化や緑を映し出す低層部のファサード計画によって、駅前広場、谷本公園周辺プロムナードの並木と連続した潤いのある街並みを創ります。
- 駅前広場や北側のにぎわい軸に対し街並みを連続させることで、藤が丘駅前の中心的な機能である病院の視認性を高め、来訪者のアクセス性を向上させます。
- 周辺地域から視認される藤が丘駅前の施設として、周辺に対して裏をつくらぬ建物デザインに配慮することで、周囲の多様な居場所や街並に開かれた病院のイメージを体現します。

街並みと呼応した柔らかな印象を作り出す建物形状・ファサードデザイン

- 駅前上空の広がり確保するとともに地形や高低差を考慮し、周辺市街地への圧迫感を軽減するよう、建物の配置計画や形状を工夫します。
- 周辺市街地の高度地区制限ラインを意識した分節により低層部と中・高層部のデザインを切替え周辺街並みとの調和を図ります。
- 遠くから見ても、緑豊かな藤が丘の街になじむよう、建物高層部については軽快で柔らかな印象を与える形態や色彩等に配慮します。

駅前空間に向けた顔づくり

建物が駅前広場と馴染むよう、バス上家など屋根と呼応した庇を設けるなど一体性のある計画とし、大きな広がりを感じられる設えとします

【高層部の考え方】

- 高層部は角を落とし、柔らかな印象の形状を検討します。
- 低層部の柔らかな印象を継承する曲線形の水平ラインの分節を検討します。

【中低層部の考え方】

- 曲線形の庇により柔らかな印象を創出します。
- 藤が丘らしい緑に囲まれた駅前空間の演出により歩行者からの緑の視認性を高めます。
- 建物機能に応じた開口部と植栽計画の連携により映り込みによる奥行ある緑の表現 / にぎわいのにじみ出しを演出します。



※パースは現時点のイメージです

※本資料は、当地区の景観形成について、横浜市都市美対策審議会景観審査部会より意見を伺うための資料であり、計画内容が確定したものではありません。
※計画内容については、今後関係機関と協議の上、決定していきます。また、今後の検討によって内容を変更する場合があります。